

# 広報 京丹波 5

NO.139 2017.5.17 発行 TOWN KYOTAMBA



## 02 特集 第2次京丹波町総合計画 ～私たちが目指すまちの将来像

- 06 京丹波町地域福祉計画を策定
- 08 地域熱供給システム運転開始
- 10 旧和知第二小学校跡地活用「わち夢広場」オープン
- 13 暮らしのガイド
- 14 人の動き
- 16 まちの話題
- 18 いきいき健康術
- 19 お茶の間
- 20 人と人 地域と世界をつなぐ みんなの手

## 絆

旧質美小学校きのこ文庫で、町CATVと防災啓発を行う関西大学社会安全学部の学生らが「つなげてつながる。笑顔とだるまの写真展」を開催しています。友好町・福島県双葉町の伝統工芸品「双葉だるま」にちなみ、折り紙のだるまにメッセージを添え、来年の双葉町だるま市へ届けるプロジェクト。目標1,000個です。  
あなたの声が復興の追い風になります。

京丹波町のこれからの10年の  
指針となる第2次京丹波町総合  
計画を3月22日に策定し、新た  
なまちづくりが始まっています。  
計画は、まちの将来像を定めた  
基本構想と施策の体系的な枠  
組みを定めた基本計画を本計画  
とし、実施計画に主な事業を定  
めました。計画期間は、平成29  
年度から38年度までの10年間。  
長期に渡るため、平成34年度ま  
での6年間で前期、平成35年度  
以降の4年間で後期とし、社会  
情勢の変化へ対応することにし  
ています。

## 【特集】第2次京丹波町総合計画 私たちが目指すまちの将来像

目指すまちの将来像は「日本のふるさと。自給自足的循環社会」。  
一見して時代の回帰を思わせるフレーズですが、  
その主旨は、これからの農村における新たな価値観の創造を目指すものです。

日本のふるさと。  
自給自足的  
循環社会

また、実施計画は、毎年度策定  
し、進捗管理を行います。  
将来人口は、京丹波町創生戦  
略に定める人口との整合性を図  
り、2026年(平成38年)に1万  
2千人の確保を目標にします。  
この計画を明確な方向性を持つ  
て戦略的に進めるため、3つの主  
要プロジェクトに基づいて取り組  
みます。本町の強みである「子育  
て力」「地元力」「食」「森林」を  
元に「情報」「集客・交流」の視点  
を加えて定めました。(3頁)

### 潮流の先へ

今後の町人口の動向を推計する  
と、2035年に1万人を下回り、  
以後5年おきに1千人程度の減少  
が推測されています。時代の潮流  
として、人口減少や少子化・高齢  
化の進行だけでなく、自然災害や  
事故などへ備える安心・安全意識  
の高まり、環境問題の深刻化、情  
報化社会の高度化、協働によるま  
ちづくりの進展があります。

これらの社会情勢を踏まえ、  
一定の人口を維持しながら、持続

的に活力を生み出せるまちづくり  
の方向性とは何かと考え、総合計  
画審議会はまず、「あるもの探  
し」からスタートしました。

### 町に、あるものを探し

京丹波町の強みであり財産は  
「森林」「食」「子育て力」「地元  
力」であると考えました。先人か  
ら引き継いできた豊かな森林資  
源、第一次産品を生産する優れた  
技術、町・地域で子を守り育てる  
力、人をつないできた地域の習  
慣。これらを社会の移り変わりに  
合わせて編み直していくことで、  
心の豊かさや地域への誇りを感じ  
ながら暮らせる町となり、住む人  
の満足感が元気で楽しい雰囲気  
を醸し出し、人を呼び込む原動力  
になると考えています。

町に潜在する資源や人材を地  
域内で循環することを本町では  
「自給自足的循環社会」と表現し  
ます。そして、穏やかで安心で、持  
続的な暮らしができる、未来の  
「日本のふるさと」を目指します。

## 地域資源を実らす 「緑」プロジェクト

「食」「森」など本町の地域資源の連携・循環  
により、地域における営みや経済の循環を高め、  
力強い地域産業に支えられた活力のあるまちづ  
くりを目指します。

畜産バイオガスエネルギーの活用など食と  
農のエネルギー循環プロジェクトの推進。食  
の6次産業化や農業・料理体験のツアー化な  
ど町固有の観光資源の発信力を高め、交流人  
口の増加や地域経済の活性化を図り、食の生  
産体制の安定化を図ります。

木質バイオマスの活用など森林  
資源のフル活用を推進し、食関連産業や木材  
関連産業の集積を図ります。

## 安心して暮らす 「人」プロジェクト

地域が育てた人材は、やがて地域をはぐくむ人材  
に。子育て力と地元力を発揮する取り組みが連携  
し、郷土愛をもつ人材育成は、将来にわたり安心  
ある暮らしを支え合う人材の循環につながります。

町の子育て支援や人材育成事業、学校・家  
庭・地域が総がかりで取り組む子育て

子育て力 × 地元力  
地域包括ケアシステムの構築と  
推進、自助・共助・互助・公助が  
連携する地域力の醸成

## 広域的な人・モノ・情報の循環

## 魅力を知らす 出会いをもたらす 「風」プロジェクト

京丹波町の存在を知らせる幅広い情報  
発信と各プロジェクトの連携による町の魅  
力・求心力を背景に、集客と交流を循環  
させて賑わいを生み出します。

ICTを基盤とする戦略的な情報発信の推  
進、京丹波町タウンプロモーション機構の  
設立

## 交流 集客

京丹波町創生戦略と京丹波  
映画の里づくりプロジェクトを着実に推進し  
ます。3つのプロジェクトの効果が関連しあ  
うことで、より大きな効果を生み出します。

まちづくり

# 私の視点

新たなまちの将来像「日本のふるさと。自給自足的循環社会」は、地域内の資源・人・地域力の循環と、地域外の人・もの・情報との広域的な循環を軸にしたまちづくりの発想です。あなたは、これからの未来のふるさと像をどのようにイメージしますか？

古い価値観が今、

急速に変わっているんです

「先祖伝来の土地を息子や孫に引き継ぐことが大切だ」という考え方が、変わっちゃったんですよ。今や、子どもは親の家には住まないもの、親の職業は継がないものなんです。全国の保存地区でも同じ家族が住み続けることはあきらめています。家族が、その家族の文化を受け継いでいく時代は終わったんです。

そのことを高齢の方ほど認めた

がらない。私の父も古い価値観を持ったまま亡くなりました。父は私たち夫婦が定年後、戻ってくるはずだ、戻ってくるべきだと思っていました。

家制度は1898年（明治31年）に制定された民法に規定され、このとき「婿養子」という言葉が生まれました。1947年（昭和22年）には、民法改正で家制度が廃止され、結婚したらどちらかの戸

籍に入るのではなく、夫も妻も親の戸籍から抜けて、新しい戸籍が生まれるようになりました。これを核家族といいます。婿養子という言葉は、法律用語としては存在しないにも関わらず70年間、「娘しかいないから婿養子をもろう」ということを言っているわけです。意識の改革が全然追いついていない。社会の方は完全に変化してしまつて、核家族が当たり前。まずは、自分が新しい価値観を理解できるかということですよ。

変わっていくことで

まちは生き残る

核家族制度が70年経って、墓地や葬儀の多様化・簡素化が進んでいます。都会では家族葬ばかりです。京丹波町でも、家やお寺ではなく葬祭会館で行うようになったでしょう。法事も三回忌は家族だけというパターンが増えましたね。

ヨーロッパで経験しているのです

が、まずは家で葬儀をせず、葬祭会館で行うようになり、病院で亡くなつても自宅に戻らず、そのまま葬祭会館へと、どんどん変わつて、喪服を着なくなりしました。「送る気持ちさえあればいい」となつたんです。「高齢者が着替える手間をかけるくらいなら、10分でも長くそばにいてあげよう」「悲しむ遺族のそばに1分でも早く駆けつけよう」と。そうすると、家族は葬儀の負担が軽くなりますよね。負担が軽くなれば、亡くなった家族のことを思い出す時間も増えます。家

族の絆も固まりますよね。良い方向に時間とエネルギーを使えばいいわけです。これからも、どんどん変わっていきます。古い風習が衰退して、新しい価値観が広がっていくものなんです。変わるということで町は生き残るわけです。

「自然が豊かで良い」と言われると、「俺たちがどれだけ苦労していると思ってるんだ」となる。子どもたちには、良いと思う人と悪いと思う人の二通りいることを知らせたいものです。ちょっと社会に出たら、世の中にはいろいろな人がいて標準的な人などいないことに気がつきます。料理の上手い人はたくさんいるし、まったくできない人もたくさんいる。できないことを責める必要もないと。大事なことは、物事には両面あつて、自分とはどちら側かと考えることです。本当に自分が心地よい生き方を探す中には、「ふるさとで生きる」という選択肢もあるわけです。

移住してくる人には、町の資源を使って新しいことに熱心に取り組みむ人がいます。伝統食材を使って地産地消のレストランをやるとか、景色のいい場所で小さな宿泊施設を営むとか。そこに、ふるさとに対する新しい見方、外から得られる新しい知識というものが加わります。このような新たな価値観で町をつくり、子どもたちが自分らしい人生をその中に当てはめていけるようにしてあげるのが、子どもにとって自分の未来を拓くということになります。

新しい価値観でまちをつくり

子どもたちの選択肢を増やす

変わっていくということとは、とても大事なことです。そうしないと恐竜になっちゃう。化石になっちゃうんですよ。

# 京丹波町地域福祉計画を策定しました

京丹波町では、住民が地域で生き生きと暮らし続けるための取組の方向性を示す計画として、「きずなの輪を広げ 地域で培う 京丹波の地元福祉力」を基本理念とした、「京丹波町地域福祉計画」を策定しました。

## 地域福祉計画とは

：地域における福祉のしくみづくりを行うための計画です

地域福祉とは、京丹波町で暮らす、すべての人が生き生きと心豊かに安心して生活することができるよう、地域住民を主体として、住民自治組織や行政、社会福祉協議会等の福祉関連団体に加え、企業や商店、教育機関といった地域社会を構成する多様な主体が協力し合い、ともに支え合い、助け合うことのできる地域社会を築いていくとする取組やしくみづくりのことです。

- 自 助** 個人・家族が自発的に生活課題を解決する力。
- 互 助** 個人的な関係性を持つ人同士が助け合い、生活課題をお互いが解決し合う力。
- 共 助** 社会保険制度、医療や年金、介護保険等の制度化された、相互扶助。
- 公 助** 自助・共助（互助）では支えることができない問題に、最終的に対応する制度。

## 京丹波町における地域福祉計画

：従来の対象者別の福祉計画の枠組みを越えた内容を扱う計画です

本町における地域福祉計画は、福祉の計画である一方、まち



づくりや教育・生涯学習といった従来の福祉の枠組みを越えた内容を扱う計画であり、総合計画を踏まえつつ、個別の法定計画等を横断的な視点から補完することにより、多様な福祉施策や福祉サービス、地域住民等による福祉活動を相互につなぐ役割を果たす計画として位置づけられます。

## 基本理念（ビジョン）と理念実現のための基本目標

本計画と並行して策定が進められた「第2次京丹波町総合計画」の内容や、地域の課題・特性を踏まえ、本計画のめざす基本理念（ビジョン）を以下のように設定します。

## 計画の推進体制

計画の推進にあたっては、住民や地域の多様な団体、行政といったそれぞれの主体が、自助・共助（互助）・公助の中で担うべきそれぞれの役割を踏まえ、取組を進めていくとともに、そうした取組を評価・検証するしくみを構築します。

基本理念〈ビジョン〉  
きずなの輪を広げ  
地域で培う  
京丹波の地元福祉力

### 基本理念の実現に向けた3つの基本目標を設定

#### 基本目標 1

地域福祉の要となる“担い手”を育てる

- 子どもの頃から日常的に地域とのつながりをつくる機会の提供
- それぞれのライフステージにおける意識の啓発
- 地域の多様な団体の育成・支援

#### 基本目標 2

きずなの輪を広げ“地元福祉力”を培う

- 共通の課題や目的を持った地域・団体が、それぞれの分野を超えて連携
- 住民パワーの受け皿となる多様な“場づくり”

#### 基本目標 3

多様な活動を支える“福祉基盤”をつくる

- 多様化する地域の福祉課題に対して、それぞれの担う役割を明確化、効果的な対応を推進
- 福祉や地域に関連する様々な情報発信と住民や地域の声の把握

## 木質チップの燃焼熱を暖房・給湯設備で使う仕組み

京丹波町地域熱供給施設の竣工が3月28日、同施設で行われ、京丹波町木質バイオマスエネルギー活用推進委員会や事業の関係者が完成を祝いました。

この施設は、木質チップを燃焼させ、その燃焼エネルギー（熱）を暖房設備や給湯設備へ供給するもの。木質バイオマス活用の試みとして、大倉の町有地に計画し、平成28年6月に工事着手。今年2月20日に完成し、竣工式を契機にわちエンジェルや特別養護老人ホーム長老苑への熱供給を開始しました。熱源となる建屋は180平方メートルで、チップサイロ（32立方メートル）と木質ボイラ（500キロワット）1基を配備。木質チップをサイロからボイラ

内へ搬送し、チップの燃焼熱で温めた温水を道路下に埋設したパイプで各施設へ送る仕組みです。パイプの敷設距離は計830メートル、工事費は約2億5千万円。環境省が低炭素地域づくりのために交付する補助金、グリーンプラン・パートナーシップ事業を活用しました。

一年間の木質チップ使用量は約470トンで、原木量にして年間約660立方メートル。京丹波森林組合などが搬出する林地残材などを半年間ほど土場乾燥させ、製材所で切削チップにして熱供給施設へ搬入します。熱供給施設から送られる熱は、わちエンジェルのパネルヒーターや床暖房、長老苑のパネルヒーターや入浴施設の給湯に利用できます。

# 木質バイオマス活用の試み 地域熱供給施設が運転開始

## 京丹波の木と水が届ける 癒しと温もり

特別養護老人ホーム長老苑「長老の湯」  
高齢者の使いやすさに配慮  
たっぷりのお湯で団らんのひと時を

同日、社会福祉法人わち福祉会が特別養護老人ホーム長老苑の入浴施設「長老の湯」の竣工式を実施。4月3日から営業しています。江本正昭理事長は、「たっぷりのお湯で気持ちよく団らんのひと時を過ごしていただける場になれば」と希望しています。

同法人は平成27年6月、町木質バイオマスエネルギー活用事業への参画を決定し、高齢者福祉の充実と森林資源の活用として、新たに一般開放できる入浴施設の建設に向けて着手しました。「長老の湯」は、既存施設の南側に、木造平屋建て141・75平方メートルを増築。専用玄関からラウンジ、脱衣所、浴室2室までバリアフリー構造です。浴室はデ

燃焼炉のある建屋内▶

木質チップが隣室のサイロからボイラ燃焼炉（手前）へ送られ、燃焼炉で空気量とチップ量を自動調節しながら燃焼させます。この時に発生する熱を利用して温水を作ります。温水の熱は、熱交換器を通して、各施設の暖房・給湯設備に利用できるようになります。



木質チップを保管するサイロ▶

林地残材などを町内の製材所が木質チップにしてサイロへ搬入します。



建屋の外観（手前）▼



「長老の湯」の浴室  
【営業日】男湯：月・水・金／女湯：火・木・土 【利用時間】午後3時～6時



町民の新たな交流の場がオープン

# 屋内多目的広場 “わち夢広場” と命名 ゲートボールやイベント会場、避難場所に

篠原の旧和知第二小学校の校舎跡地に整備してきた屋内多目的広場が完成し、4月14日に披露式を開催。関係者が一堂に会し、3月に公募した愛称を発表し、ゲートボールなどで交流しました。

屋内多目的広場「わち夢広場」は全天候型のグラウンドで、スポーツやイベント会場、災害時の避難場所として利用できます。幅約24㍎、長さ約54㍎、高さ10㍎の膜構造鉄骨造りで、ゲートボールコート3面を確保できる広さ。日中は自然光を取り入れて明るく、夜間照明も設置。屋外トイレ一棟を新設しました。工事費は約1億8千5百万円、財源の一部にスポーツ振興くじ助成金(※)を受けました。和知第二小学校跡地活用を推進する会の大田治行会長(下栗野)は式典で、「念願の施設が完成してうれしい。ゲートボール競技やイベントなど多くの人に利用してもらいたい」と感謝しました。

地域のシンボルを自分たちの手で  
旧和知第二小学校は明治37年に開校し、長く地域のシンボルとして住民の心のよりどころでしたが、児童数の減少により平成13年に閉校。歴史と伝統を残す校舎の活用が望まれながらも、経年劣化が著しく平成22年度に一部を残して解体しました。跡地活用を推進する会は、住民ニーズとして全天候型の施設整備を町へ要望。「冬場は積雪が多く、屋内スポーツの機会が限られていた。近場で年中楽しめるようになれば」と願い、平坦で広い立地の活用条件にも一致しました。

競技しながら会話を弾ませた



## 愛称に込めた思いを発表

大田会長と寺尾豊爾町長が息を合わせて愛称を披露。「夢を持って日々を楽しく過ごして健康に」との思いが込められている。

## 来賓など関係者の打初式

一斉にスティックを振るい、グラウンドの感触を実感。わちエンジェル5歳児も練習の成果を披露した。



同会は併設するグラウンドの用途を広げるため、芝生化を計画。平成26年度に2000人を超える住民ボランティアが手作業で芝を植え、日々の管理は同会と共同作業所「ともども」やボランティアが協力して行いました。芝生の状態は良好で、昨年からグラウンド・ゴルフやイベントに利用されています。

## 夢持ち楽しむ場に

愛称は約60点の応募の中から、審査会が決定しました。利用者には

「夢を持って日々を楽しく過ごすことで健康や幸福感につながってほしい」との思いが込められています。

披露式後、「わち夢広場」では、京都府ゲートボール連合京丹波支部が交流試合を行い、コートの感触を楽しみました。参加者には「土の硬さがちょうど良く、平坦で使い心地が良い」と好評。滝本実支部長(実勢)は、「これから積極的に利用したい。完成を祝い、京丹波支部の大会を計画している。近隣市を招待する交流試合なども開催したい」と考えています。

## (※)スポーツ振興くじ助成金

スポーツ振興くじtotoは、スポーツ環境の整備・充実などスポーツ振興施策を実施するための財源確保を目的に導入されました。平成14年度からtotoの販売収益を活用し、スポーツに親しめる環境づくりから第一線で活躍するアスリート選手の育成まで、地方公共団体やスポーツ団体が行うスポーツ振興事業に対する助成が行われています。



## 2016年産米の食味ランキング 京都・丹波キヌヒカリが 念願の「特A」獲得 お墨付きの食味、販売戦略の道筋に

日本穀物検定協会が行う2016年産米の食味ランキングで、京都・丹波の「キヌヒカリ」が、食味が最も良いとされる「特A」を獲得しました。評価対象となった44道府県141産地品種銘柄の内、初めて「特A」ランクに入ったのは当地域を含む計11産地品種銘柄。京都府内では丹後地域に次ぐ獲得となりました。

この検定は1971(昭和46)年産から毎年、全国規模の産地品種に対して実施されています。当地域では平成26年産が上位「A」評価を得て以降、地元産米の付加価値をより高めようと、「特A」獲得に向けて良質米の生産に取り組んできました。京都丹波良食味米推進協議会事務局の福井敏之係長は、「平成30年産米から国が配分面積を示さず、生産者が市場の動向をみながら生産・販売することが求められる。管内生産量の5割を占めるキヌヒカリが最上位を獲得したことは、販売戦略の一つの道筋になる」と力を入れます。



キヌヒカリのおにぎりを受け取るイベント客。京都丹波良食味米推進協議会が「森の京都」テイク・オフイベント(3/20)会場でその美味しさをPRした。



ひとりで悩まず、  
お気軽にご相談ください

京丹波町消費生活相談窓口

電 話：0771-82-3803

相談日：水・木曜日

南丹市の相談窓口も利用できます

南丹市商工観光課内

電 話：0771-68-0100

相談日：火・金曜日

身近な消費者問題について  
考えてみませんか。



**5月は消費者月間です！  
行動しよう 消費者の未来へ**

消費者庁では、安全・安心で豊かな暮らしが実現される未来に向けて、「行動しよう 消費者に未来へ」を平成29年度の統一テーマに、さまざまな取り組みを行っています。

### 訪問販売 電話勧誘

#### 事例 1

「電気の基本料金が今よりも安くなる」と勧誘電話がかかる

#### 事例 2

「古着はないか」との電話の後、「貴金属はないか」と訪問があった

#### 事例 3

レンタルオーナーになれば高額配当が得られると勧誘された

突然かかってくる電話や訪問などの勧誘には、即答せず、よく考えてから返事をしましょう。

### 架空請求 インターネット

#### 事例 1

インターネットで「お試し1回500円」の注文をしたら定期購入契約だった

#### 事例 2

スマートフォンでアダルトサイトにアクセスしたらシャッター音が鳴った

#### 事例 3

インターネットで見つけた消費者相談窓口が探偵業者だった

#### 事例 4

サイト業者から請求を受け、コンビニでプリペイドカードを購入して暗証番号を教えたしまった

インターネットはたいへん便利ですが、思わぬトラブルに巻き込まれることもあります。不要なサイトには近づかない、契約するときにはよく確かめてからにしましょう。

### 製品事故などの 危険情報

#### 事例 1

「蜂蜜」による乳幼児の死亡事故

#### 事例 2

カセットコンロを2つ並べて出火した

正しい製品の使い方身を付けましょう。

### 特殊詐欺

京都府内でも振込め詐欺などの特殊詐欺被害が多く報告されています。なかでも公的機関の職員を名乗って「医療費の還付がある」とATMへ誘導させる還付金詐欺が急増しています。

怪しいと思ったら、すぐに警察が消費生活相談窓口にご連絡ください。

## 道の駅「瑞穂の里・さらびき」一部リニューアル トイレ棟を新しく、駐車場を再配置 利用者ニーズに応えた最新設備で5月連休前に供用開始

### 施設の老朽化と使いづらさ

道の駅「瑞穂の里・さらびき」(大朴)のトイレ及び付帯施設整備工事が完成し、本町とグリーンランドみずほ株式会社は4月22日、関係者を招いて竣工式を行いました。

同駅は平成11年4月、府内7番目の道の駅としてオープン。国道9号と国道173号が交わる地域に位置し、年間利用者数は開設時の10万人から16万人へと増加し、着実に業績を伸ばしてきましたが、施設の老朽化が課題となっていました。特に需要が大きいトイレは、和式のみで個室数が少なく、3年前のバスツアー客への調査で、「休憩時間の大半をトイレの待ち時間に費やしてしまい、買い物を楽しめない」との声が多数寄せられました。また、京都縦貫自動車道京丹波みずほICの供用開始による利用者の増加も考えられることから、施設管理者である京都府南丹土木事務所が、機能を強化して利用客の利便性を良くするため、改修事業に着手しました。

### 利用者の休憩ニーズに対応

新しいトイレ棟は便器を増設し、バリアフリー対応を強化。近年の自転車やバイクツーリング客の利用増加に対応し、専用駐車場を設け、自動車の駐車スペースを再整備しました。案内サイン1基も新設。今後、特産品販売施設とトイレ棟を結ぶ屋根付き通路を整備し、旧トイレ棟を撤去して芝生広場にします。全体事業費は約1億2千万円で、平成29年内にすべての改修を終えます。

ふじ たもつ  
藤田保駅長は、「行楽シーズンには一日に10台以上のツアーバスを迎える。快適になった設備を大いに利用していただきたい」と5月の連休前の完成を喜びました。式典後、農林産物等販売部会が豚汁をふるまい、来場者を喜ばせました。



暖かい豚汁に舌鼓。  
ハタケシメジの唐揚げの試食や柚子サイダーの試飲、もえぎの和菓子販売も行われた。



新しいトイレ棟

旧トイレ棟は年内に撤去して芝生広場に

ツーリング客の増加に対応したバイクや自転車専用の駐車エリア

行政相談委員の長年の貢献に感謝

## 片山俊明さんへ 総務大臣の感謝状を贈呈



平成21年度から4期8年間、行政相談委員を務め、平成28年度末日に退任した片山俊明さん（本庄）へ4月11日、総務大臣の感謝状が贈られました。

寺尾豊爾町長は「幅広い人脈と多くの経験により住民の信頼を築き、町行政に大きく貢献いただいた」とねぎらい、片山さんは「相談者に納得してもらえるよう心がけてきた。活動を通して多くの人と交流できたことは私自身の宝になった」と振り返りました。

新入団員迎え使命感新たに

## 平成29年度京丹波町消防団 入退団及び役員任命式

京丹波町消防団は平成29年度の入退団及び役員任命式を4月1日、蒲生野中学校体育館で実施。新たに部長・班長となる団員と新入団員の任命、退団者への辞令交付、平成28年度消防定例表彰の伝達が行われました。

初任者及び指導者の訓練は4月8日、グリーンランドみずほで実施されました。

## 公益財団法人日本消防協会長表彰

【功績章】堀 敬之(支団長)

【精績章】前田和彦(分団長)

古宮幸憲(同)

川邊智行(同)

【勤続章】長澤 誠(副団長)

栗林英治(同)

木戸律夫(団員)

前林二郎(同)

松下圭一(同)

\*階級は表彰時点

行政相談委員  
任期 平成29・30年度

野間広和(坂原・新任)  
長谷川博文(水原・2期目)  
山田 進(高岡・2期目)  
【退任】  
片山俊明(本庄・4期)

社会教育委員  
任期 平成29・30年度

【上豊田】中野 昭  
【橋爪】太田明平  
【質美・行佛】澤井安子  
【蒲生】猪田浩和  
【下栗野】江本範子

京丹波町消防団

▼入団者

【丹波支団】  
樋口節雄、谷 健人  
徳島翔太、湊 晃一  
森崎健太、奥西浩典  
木戸瞬介、樹山 光  
谷原 優、山崎宏樹

▼退団者

【丹波支団】  
平井法夫、堀林 宏

【瑞穂支団】  
田中 翼、山森和也  
鳥井孔貴  
高畑滉平、古川 修  
宮野敏樹、勝田雅洋  
稲元春喜、井尻 大  
細見圭亮、川田了一  
川邊 樹、谷岡 慎

【和知支団】  
石黒幹朗、高崎則兎  
藤本拓磨、村上翔也  
山岸知博、波々伯部 慎  
片山祥規

【瑞穂支団】  
稲元好治、石田信彦  
中村浩樹、阪本 圭  
藤井直樹、西山 涉  
高橋達仁、山田龍太郎  
梅原信明、正田哲也  
片山和次

【和知支団】  
森本和広、荒井伸治  
由良 渉、樹山耕二  
山東満洋、福林康弘  
出野雅之、山本忠明  
小林洋祐、人西 崇  
竹下三好、野口彰夫  
溝口克幸、山田健太  
今中孝雄、藤本信之

入団者を代表して勝田雅洋さん(瑞穂支団)が「良心に従って忠実に消防の義務を遂行することを厳粛に誓います」と宣誓。



# 人の動き

29年度の町内役員・委員を紹介します  
行政区で表記しています(敬称略)

区長

▼丹波地区

【笹尾】一谷 徹  
【中畑】今西照治  
【辻村】山鳥治男  
【中村】藤原喜代実  
【下村】山田信司  
【鎌倉】野田寿之  
【西階】船越正明  
【水戸】渡邊由美子  
【新水戸】徳島悦男  
【須知】湊 嘉秀  
【市森】岩崎浩和  
【上野】山崎 正  
【蒲生】山崎俊雄  
【蒲生野】今川敏夫  
【曾根】岩崎雅人  
【院内】生田 均  
【幸野】南 剛  
【森】森 長夫  
【塩田谷】谷口公一  
【安井】村山滋郎  
【富田】太田誠一  
【豊田】小林 薫  
【上豊田】竹口忠義

【実勢】篠塚信太郎  
【下山】松村康弘  
【白土】原田 豊  
【尾長野】木村智史  
【蕨】大槻利秀  
【黒瀬】前村康雄  
【駅前】奥戸 章  
【知野辺】松岡弘幸  
【下新田】高井行雄  
【上新田】大嶋昭治  
【グリーンハイツ】川合正裕

▼瑞穂地区

【中台】谷山恒司  
【橋爪】八木光悦  
【和田】井上正幸  
【井脇】上西利秋  
【大朴】松村道夫  
【井尻】田口 治  
【八田】森下義之  
【小野】谷内誠樹  
【長谷】井上 勉  
【坂井】上田隆男  
【水原】塩谷文雄  
【上大久保】谷垣昌也  
【下大久保】畠中原一  
【鎌谷下】村上和輝  
【鎌谷中】松木祐司

【鎌谷奥】上田 隆  
【東又】太野義昭  
【保井谷】真野 明  
【栗野】山内 清  
【妙楽寺】城崎正継  
【水呑】山元貴人  
【三ノ宮】小山正幸  
【質志】北村吉一  
【戸津川】後藤和司  
【猪鼻】宇野徳太郎  
【行佛】松永博志  
【中村】三好悦夫  
【庄ノ路】林 幸男  
【和田】上林太志  
【上野】竹野和宣  
【下村】大西弘二  
【北久保】山下 徹

▼和知地区

【中山】宇野浩史  
【升谷】野間和幸  
【市場】前林二郎  
【大倉】出野健司  
【篠原】中尾昭弘  
【大迫】堀 廣巳  
【長瀬】山口文昭  
【塩谷】栗林耕治  
【上乙見】片山文生

【下乙見】澤田 清  
【西河内】藤田正之  
【下栗野】山口正幸  
【細谷】吉田 学  
【上栗野】梅原房雄  
【仏主】梅原健一  
【本庄】春田 貢  
【坂原】和田法広  
【中】片山 守  
【角】藤山丁則  
【広瀬】片山栄治  
【才原】片山敏和  
【大簾】山内貞男  
【広野】樋口敬次  
【出野】片山順治  
【稲次】十倉済夫  
【安栖里】樋口義昭  
【小畑】尾池吉嗣

交通指導員  
任期 平成29・30年度

【笹尾】今西恵一  
【中村】山本浩生  
【新水戸】長谷川美登利  
【須知】平尾隆幸  
【須知】岡 秀樹  
【上野】平井吉昭

【蒲生野】田端頼子  
【院内】野間裕貴  
【安井】松本功三  
【富田】猪阪義人  
【豊田】森瀧展夫  
【実勢】森内 博  
【上豊田】吉岡晃代  
【下山】山内秀文  
【グリーンハイツ】川合芳章  
【中台】庄林 誠  
【和田】太田季好  
【長谷】神社秀信  
【水原】小川大啓  
【上大久保】谷掛 壽  
【鎌谷中】山田俊隆  
【三ノ宮】上林 篤  
【栗野】坪 建三  
【質美・行佛】上田大輔  
【質美・上野】竹野和宣  
【下栗野】大熊明宏  
【上乙見】榎川勝夫  
【中山】西田和志  
【坂原】和田法広  
【本庄】尾寄哲夫  
【広瀬】白波瀬敏男  
【稲次】下村孝康

## 新メンバー迎え校舎に活気

町立小中学校など入学・入園式

門出を祝う桜が満開の4月12日、町立中学校で入学式が行われ、計99人（蒲生野51人、瑞穂32人、和知16人）が新生活をスタートさせました。蒲生野中学校では、先輩らの歓迎を受けた入学生を代表し、小野そらさんが「努力を忘れず、先生のご指導や先輩のアドバイスを受け、仲間と協力し過ごしていきたい」と宣誓。前日の11日には町立小学校の入学式が行われ、計83人（竹野4人、丹波ひかり34人、下山6人、瑞穂24人、和知15

人）が門をくぐりました。

須知幼稚園の入園式は13日、16人が仲間入りし、町立保育所の入所式は6日、計69人（上豊田27人、みずほ27人、わち15人）が集団生活の一步を踏み出しました。



入所式で歓迎を受けた親子（みずほ保育所）

## はるいろさくらまつり

自然との共生メッセージ

森林の魅力を食べや芸術を通して発信する「はるいろさくらまつり2017」が4月8日・9日、わち山野草の森で開催され、町内外から一千人以上が訪れました。

メイン会場は、自然食や自然素材を扱う屋台が買い物客でにぎわい、杣つき餅やイノシシ肉料理も完売。山野草の専門家と園内を巡るガイドツアーや山野草のオークションも人気を得ました。

森林内では、自然の中に造形作品を展示する「森の展示室」や特設カフェが開かれ、鑑賞者は時間の経過や天候で変化する作品の見え方、作り手との対話を楽しみました。



森林の静かで澄んだ空気にコーヒーの香り漂わせ語らいのひと時

## 人形の表情豊か

第26回ふるさと人形展

約2千体の雛人形などを展示する第26回ふるさと人形展が4月1日から5日間、「みずほ人形の家みやび」で開催され、延べ816人が訪れました。町ふるさと体験資料館運営委員会と町教育委員会は、人びとの暮らしに寄り添ってきた人形を受け継ぐと、平成4年から開催しています。

今年は、休憩所を増設し、人形の配置を見やすく工夫しました。来場者は節句の思い出を振り返りながら、華やかな雰囲気を楽しみ、地元有志による模擬店は2日間、すぐに完売する人気ぶりでした。



各時代の雛人形、五月人形、土人形などが並んだ

## 選手の活動支援や競技の振興に向けて

京丹波町カヌー協会設立

カヌー競技の普及や振興を目指す京丹波町カヌー協会（片山幸男会長）が4月20日に設立。道の駅「和」道路情報センターで設立総会を開きました。

昭和63年の京都国体で本町がカヌースラローム・ワールドウォーター競技会場になったことを契機に、自然地形を生かした地域ス

ポーツとして定着。和知ジュニアカヌークラブ（吉尾裕子主宰）が競技の普及やジュニア選手の育成母体となり、全国で活躍する選手や指導者を生み出しています。

協会の構成員は選手や指導者、関係者など75人、1団体。今後、町体育協会や町教育委員会と連携して、競技力の向上など若い選手の支援体制を強化し、体験教室への指導者の派遣などカヌー競技の継続した発展に取り組みます。

京都府カヌー協会の荒巻隆三会長は、リオ五輪のカヌー競技における日本人選手の活躍などに触れ、「カヌーへの関心が高まる中、良いタイミングでの設立」と期待を寄せます。片山会長は会員へ、「会員相互の交流を深め、カヌーを楽しみ、まちづくりにも貢献できるよう取り組もう」と呼びかけ、会場は拍手で応えました。



作業にいそむボランティアの皆さん



20年間で桜が成長してトンネルのよう



放課後に由良川(坂原)で練習する和知ジュニアカヌークラブの児童ら

マンガで描く、ある地域おこし協力隊の日々

## 木との対話

作・渡辺 智 千



# お茶の間

「お茶が入ったよ」の一声で家族が集まり心通わせた「お茶の間」のようなベージュをめざしています。

### チャレンジ! 頭の体操クイズ

ワ+未+四+サ+ロ+タ=□□

【例題】西+木=栗

ヒント☆組み合わせると、  
ぼくになるんだム



図書室がおすすめする

## こんなときの、この一冊



### 『流転の海 第1部～第8部』

宮本 輝・作／新潮社

熊吾という破天荒な商売人が50歳にして初めて息子を授かり、戦後間もない

大阪で再起をかけ奮闘する物語。商売や日常において、さまざまな人と関わっていく様子が、わが子への深い愛情を通して描かれています。車社会への変化、メートル法への移行、東京オリンピックの開催など時代背景も細かく表現されています。憲法や教育、幸福のあり方を今一度考えてみる機会にしてみませんか。1982年から35年間かけて8部まで発刊。次回作9部で完結の大作です。

(松山公民館図書室：谷澤智子さん)

図書室ご案内 中央公民館(蒲生)、松山公民館(大朴)、梅田公民館(鎌谷下)、三ノ宮公民館、質美振興センター、ふれあいセンター(本庄)  
貸出期間 2週間 1回の貸出冊数 1人5冊

〈掲載例〉



京丹波 味夢ちゃん  
(蒲生/129.1.1生)  
「元気にすくすく育ってね」  
京丹波 和知・瑞穂

### 「こんにちは赤ちゃん」コーナーに お子さまの笑顔をお寄せください

〈対象者〉町内在住の生後1歳未満のお子さま  
〈申込方法〉お子さまの顔写真に氏名などを記入する申込書を添えて、役場または支所まで、持参か郵送で届けてください。メールの場合、写真を添付し、件名を「こんにちは赤ちゃん」として、申込書に記載する必要事項をメール本文に記載して下記アドレスへ送付してください。

【問】京丹波町企画政策課 広報広聴係  
電話 82-3801/FAX 82-2500  
Eメール kikaku30@town.kyotamba.lg.jp  
※申込書は役場・支所窓口にあるほか、町ホームページからダウンロードできます。

### わたしたちの町

人口 14,729(-41)  
男 6,982(-20)  
女 7,747(-21)  
世帯数 6,327(-11)  
5月1日現在/( )は前月比

### 義援金などの受付状況

熊本地震義援金 1,838,447円  
福島県双葉町復興支援募金 7,078,869円  
(平成29年4月30日現在)

### ふるさと応援寄付金のお礼

片山 山治 10万円  
保坂 一之 1万円

\*敬称略  
\*掲載内容は寄付者の了解を得ています

### 本紙4月号の訂正とお詫び

8ページ3段目、6行目の「【係長・主任】」を削除。8ページ4段目、13行目の「室長」を「主査」に訂正。

以上の通り訂正し、お詫び申し上げます。



## いきいき健康術 第117回

町立病院・診療所の医師や専門職員が  
健康情報をお届けします。

### 『たかが便秘されど便秘』

京丹波町病院 福井 勇人 医師



### 便秘の原因はいろいろ

便秘に悩んでいる方は多いと思います。便秘とは、3日以上排便がない場合や排便があっても残便感があるような状態とされています。一口に便秘といってもいくつか種類があります。腸が押し出す力が弱くて出ない場合、便が肛門まで来ても排便を促す機能が正常に働かず便が停滞する場合、大腸のぜん動運動が強すぎるため起こる場合などがあります。

### まずは生活習慣・食生活習慣の改善を

いずれの状態にせよ、まず生活習慣や食生活の改善を行うことが重要となります。例えば、1日の中で決まったタイミングでトイレに行く習慣をつけることが大切です。また、トイレに行きたくなくなったときは我慢せず行くようにしましょう。運動も腸の運動を活発にして便秘が改善する場合があります。

次に食生活の改善も重要です。朝食をきちんと取り、規則正しい生活を送るようにしましょう。規則正しく食事が腸に入ることによって腸のぜん動運動が起り便を運ぶようになります。食事の内容としては食物繊維をとるようにしましょう。食物繊維が多い食品としては野菜類、海藻類、豆類、穀類、いも類、きのこ類などがあります。

### 便秘が続く場合は医師に相談

もちろんこういったことに気を付けていても便秘になる方も多くいらっしゃいます。便秘が続く場合は、それが原因で重症になることもあり注意が必要です。そういった場合は薬を用いることもあります。薬の種類としては便を軟らかくするものや腸の動きをよくするものなど、いろいろあります。

最後に、便秘が最近になってひどくなってきたという方は、一度大腸カメラなどの検査を受けることをお勧めします。病院で遭遇する便秘の中で大腸がんなどにより大腸が狭くなり便秘を引き起こしていることも、まれではありますが存在します。「たかが便秘されど便秘」ですので、便秘で困ったことがあれば病院で受診することをお勧めします。



京丹波町地域包括医療発表会で発表する福井医師

京丹波町病院 電話0771-86-0220 町立医療施設の敷地内は全面禁煙です。ご理解とご協力をお願いします

石井食品（株）、地元生産者、京丹波町道の駅連絡協議会が共同し、地元産のタケノコを使った新商品を開発。4月下旬から5月上旬まで、大阪・京都の百貨店や町内道の駅で販売しました。

## 三者四脚の商品開発、京丹波産の味を全国へ



▼「京都京丹波の筍がつまったハンバーグ」

▼期間限定「まぜごはんの素 京都京丹波の筍」



### 人と人 地域と世界をつなぐ みんなの手

“地域の課題解決”、“暮らしを楽しく”、さまざまな目的で地域運営や活性化に取り組む皆さまの活動が繋がって未来の京丹波をつくります

持ち味を生かすため無添加調理の商品作りを進めており、近年は全国の地域食材に着目。昨年度は丹波クリのきんとんなどを試作し、東京都内で他産地商品との食べ比べを行い、丹波のブランド力を確かめました。さらに地域と連携した事業へ進めようと今年1月、本町へ商品開発事業を提案。町は、地元食材を活用した地域経済の活性化につながるを考え、生産者との仲介役を道の駅連絡協議会へ打診しました。各駅は「まさにプラットホームとしての役割」と各出荷者団体へ参画者を募り、毎日の工場搬入などを担いました。生産者10戸が取り組み、タケノコ約3トが使用されました。

「京丹波産のタケノコは軟らかく、えぐみがなく香りも良い」と石井食品（株）の石井健太郎会長。

「今後、黒大豆や米の活用も考えられる。生産・流通・加工が一体となった取り組みが、地域の活性化につながる」と食の宝庫京丹波での味の開拓は始まったばかりです。

「今までの苦勞が報われる。がんばってきたかいがあった」と商品開発に参画した生産者の一人、中村勇治さん（蒲生）。荒れていた雑木林をコツコツと整備し、竹林に整えたのは約10年前のこと。「車道

から京都市近郊の竹林が宅地化されていくのを見て、チャンスだと思った」。タケノコは収穫時期が限られ、他の作物の栽培と組み合わせやすいと考えました。「整備しないと良いタケノコが出ない」と冬場

に古い竹を間引き、掘った跡には肥料を入れ埋め戻します。翌年も美味しいタケノコが育つようにとの願いを込めて。

石井食品株式会社（長島雅社長／本社・千葉県船橋市）は、食材の